

2011年8月11日

題名 マダイ栽培漁業の効果と課題

* (財)神奈川県栽培漁業協会は、神奈川県水産試験場の事業を昭和62年度から引き継ぎ、毎年、**全長6~8cmマダイ種苗を80~120万尾**、東京湾と相模湾に**放流**してきました(図1,赤;折線グラフ)。

* 放流前には遊漁によるマダイの釣獲量は3.8トンとの記録はあるものの非常に少ない状況でした。マダイの種苗放流が始まって9年後から、遊漁によるマダイ釣獲量調査が始まり、年による変動はあるものの、**遊漁による釣獲量は、漁業による漁獲量の2倍近くに達**しています(図1)。

* **漁獲量は**、放流後には変動が少なくなり、安定した状況ですが、増大はほとんど見られません。漁獲量と遊漁釣獲量を合わせた量を捕獲量とすると、**放流後には、放流前の2倍以上となり、種苗放流によるマダイ資源の増大が図られました**(図1,ブルー;漁獲量、黄色;遊漁釣獲量棒グラフ)。

* **重量混入率**は、1991年から2008年間で最低38%、2007年の最高70%、**平均41%**でした。**尾数混入率は**、2001年の最低25%、2007年の最高78%、**平均48%**でした(図2,ブルー;天然魚捕獲重量、赤;放流魚捕獲重量棒グラフ)。

* 2006年のマダイ捕獲量136トンのうち、**75%が遊漁、25%が漁業**で捕獲されていました(図3円グラフ)。

* **回収率**(捕獲尾数/放流尾数)は、3.5%~12.6%であり、1991年から2002年までの**平均は7.1%**でした。

* 栽培漁業協会の決算では、2003年度から2010年度の平均でマダイ種苗生産に掛かった**経費は約2400万円**でした。**2011年度からマダイ種苗生産経費**に対する県の**補助金はなくなり、受益者負担の原則**となりました(図4)。

* **2003年度**に神奈川県水産課が神奈川県全域で行った調査に基づいて地域別に**遊漁船によるマダイ釣獲尾数と遊漁者数を推計**しています。神奈川県全体のマダイ釣で98,137尾、遊漁者数121,316名、ビシ釣り、サビキ釣り、その他の釣りを合わせると**115,250尾、1,036,300名**でした。2400万円を釣獲尾数で割りつけると3列目の数字となり、各地区から納付された22年度の遊漁船協力金とマダイ協力金を合わせた額が4列目となります(表1)。

* (財)神奈川県栽培漁業協会は、2001年度から**マダイ釣り人が1回乗船するとき200円の協力金制度を導入**しました。初年度は目標額に近い額1200万円を

寄付していただきましたが、年々減少を辿り、2004年度には200万円余となつてしまいました。そこで、マダイ釣船に1ヶ月1隻1万円の制度を加え、**現在580万円前後**となっています(図5)。

* この間、株式会社シマノからは、**2001年度に320万円、2003、2004年度を除き、2010年度まで毎年100万円をご寄付**していただけてきました(図5)。また、今回、株式会社シマノの設立**90周年を記念し270万円をご寄付**していただきます。

* マダイは、幼稚仔の時期、内湾の浅海域特にアマモ場で育成します。浅海域が埋め立てによって狭められた現在、マダイの再生産場は限られ、**現在の釣果水準を保つためには、マダイの種苗放流は欠かせません。**

* **神奈川県は、(財)神奈川県栽培漁業協会の経営の自立化を2011年度から実施し、種苗生産費等の補助金を今後、助成することはなくなりました。**しかし、**放流された種苗は無主物**となります。また、**再生産用の親魚を確保**するためには、**行政による支援は欠かせないもの**と考えています。

* 今後、**今のマダイ釣果水準を保つ必要がある**ならば、マダイを利用する人に**応分の負担をして頂く必要**があります。

* 神奈川県で育まれた技術の維持・発展また釣り人のニーズに応えるため、(財)神奈川県栽培漁業協会としても公益財団法人を目指して申請を予定しています。

* 今後、**マダイの遊漁を持続するため、遊漁船業者、釣り人、漁業関係者の皆さまに今まで以上のご理解を頂くため、報道関係者の方々のご理解とご支援をお願いします。**

問い合わせ先

(財)神奈川県栽培漁業協会

〒238-0237 三浦市三崎町城ヶ島養老子

専務理事 今井 利為(イマイ トシタメ)

電話 046-882-6980

FAX 046-881-2233

H.P <http://www.info@kanagawa-sfa.or.jp>

Mail imai.ts@kanagawa-sfa.or.jp